

美保之碕の由来

島根半島の東端に位置する地蔵埼は、かつて美保之碕と呼ばれていました。8世紀に編纂された、出雲の地方文化と伝説を記した「出雲国風土記」には国引き神話という話があります。その物語には、国をあまりに小さいと考えた土着の神の一人が、大綱を使って土地を引き寄せ、その土地の一部が美保之碕と、日御碕になったという記述が含まれています。この鳥居から4キロ先にある「地之御前」と「沖之御前」という島々は、美保神社の御祭神である事代主神（えびす様としても知られている）の魚釣りの島として伝えられており、現在も美保神社の境内とされています。毎年5月5日に、美保神社で、これらの島々から事代主神とその御后を迎え入れる儀式が行われています。

夏の間、沖之御前島周囲の海岸線から登る雄大な日の出を見ることができます。島の薄暗い輪郭の変化を見て漁師は天気を読んだと言われており、漁に出かけるかどうかはこの島の輪郭の形状で決定されます。美保神社に伝わる古い記録によると、沖之御前島の海底には神楽(神社で行われる神聖な音楽)の調べが響くと言われ、日常の体験を超えた神秘的な空間とされています。この礼拝所は、美保神社の古文書に記載のあった古事に基づき、1973年に建てられました。

この地域は、島根半島・宍道湖中海ジオパークエリア内にあります。